

## 企画展 「ことごとく未踏～俳人・高柳克弘の世界～」是非ご覧ください！

ただ今、浜松文芸館では、平成30年度浜松市教育奨励賞「浜松ゆかりの芸術家」を受賞した俳人、高柳克弘氏の顕彰記念事業として、俳句展を開催中です。(2019.11.10～2020.2.16)



この俳句展は、20代・30代の若きアーティスト16人と高柳氏作俳句とのコラボ展です。展示室には、高柳氏の俳句をアーティストの方々が鑑賞し、絵画、詩、短歌、映像や造形で表現した作品の数々が並んでいます。大変面白い展示になりました。まさに、俳句の広がり、可能性が感じられる展示と言えます。しかも、室内には、観覧した皆さんの句作心を刺激する仕掛けが満載。例えば、机の引き出しを開けると、キューピー人形やらビー玉、トランプやら、俳句の材料になりそうな物が目に飛び込んできます。ショウケースには、冬の季題としてマフラーが入っています。投句箱に寄せられた俳句は、後ほど高柳氏に見ていただき浜松文芸館の掲示板で紹介することになっています。俳句を作ることに少々抵抗を感じる方は、『寒林』を象徴する桂の木に、座右の銘や好きな言葉などを葉に書き、貼ってみてください。皆さんの「言の葉」で桂の枯れ木を豊かな木に育てましょう。



そして、各作品に付いているキャプションもじっくり読んでいただきたいと思います。高柳氏自身で一つ一つの作品にコメントを付けました。これを読むと高柳氏の俳句への取り組みの軌跡やポリシーがうかがえます。今、若手No1の俳人として、活躍中の高柳氏は、チラシの中で皆さんに、こんなことを呼びかけています。「見に来てくださった方が、俳句を知り、好きになって、ひとりの俳人となって帰っていく、そんなことを夢見てこの展示を作りました。俳句がひらく扉の向こうには、未踏の世界が広がっています。さあ！」と。浜松文芸館の展示室で、しばし俳句の世界に浸りながら言葉紡ぐことのすばらしさを感じていただければ幸いです。

浜松市民文芸 第65集  
ご投稿ありがとうございました！

応募点数 2,335点 応募者数(延べ)550人

65年の長い歴史を誇る浜松市民文芸です。高校生から、100歳の方々まで、幅広い年齢層から投稿がありました。令和2年、3月の発行を楽しみにお待ちください。

つれづれなるままに・・・ああ勘違い・・・

小春日和のよい日が続いている。「小春日和」が初冬の穏やかで暖かな日をいうのだということを知ったのは、高校生の時、国語の授業であった。季節を問われ、自信を持って春だと答え、恥ずかしかった。「情けは人のためならず」の正しい意味を知ったのは、教員になってからだ。思えば、意味や用法など勘違いしている語の多いこと。政治家が、「未曾有」を「みぞうゆう」と読んだり、地名を読み間違えたり。あらまあ、と思ったが、人のことは笑えない。最近、新聞で取り上げられていた意味の取り違えに「慄然とする」があった。何となく「ぶすつとする、怒っている」感じがする語である。そのように使っていたら、本当の意味は、「驚き呆れている様子」だとか。かれこれ50年余り誤用してきたわけだ。今は、怪しいと思ったらネットで調べることになっている(辞書を引かなくなるとこれも久しい)。人にも聞くようにしている。正解を知るとうれしいものだ。少々賢くなった気がする。勘違いは、成長・進歩の一步である。